

第65番 三角寺

●愛媛県四国中央市金田町三角寺甲75
☎0896-56-3065
●宿坊/なし



第66番 雲辺寺

●徳島県三好市池田町白地ノロウチ763-2
☎0883-74-0066
●宿坊/なし



沿線の見どころ



椿堂 常福寺

弘法大師の杖立て伝説にまつわる大きな椿の木が茂る寺院。三角寺で修行した弘法大師がこの地の地藏堂へ立ち寄った際、熱病に苦しむ村人のために椿の杖を土にさし、病魔を土へ封じ込めた。後にこの椿が芽を吹いて成長したことから「椿堂」と呼ばれるようになったという。現在は近くにあった常福寺と合併。

所 愛媛県四国中央市川滝町下山1894
☎ 0896-56-4523
🕒 7:00～17:00(納経時間)



境内の見どころ



小林一茶ゆかりの山桜

寛永7年(1795)、この寺を訪れた小林一茶があまりの美しさに感嘆して「これでこそ登りかひあり山桜」と詠んだといわれる山桜は、鐘楼門をくぐった左奥にある。樹齢は300～400年にもなるといわれ、春は桜花を見に訪れる人も多い。大きく広がった枝は、何ヶ所も棒で支えられている。

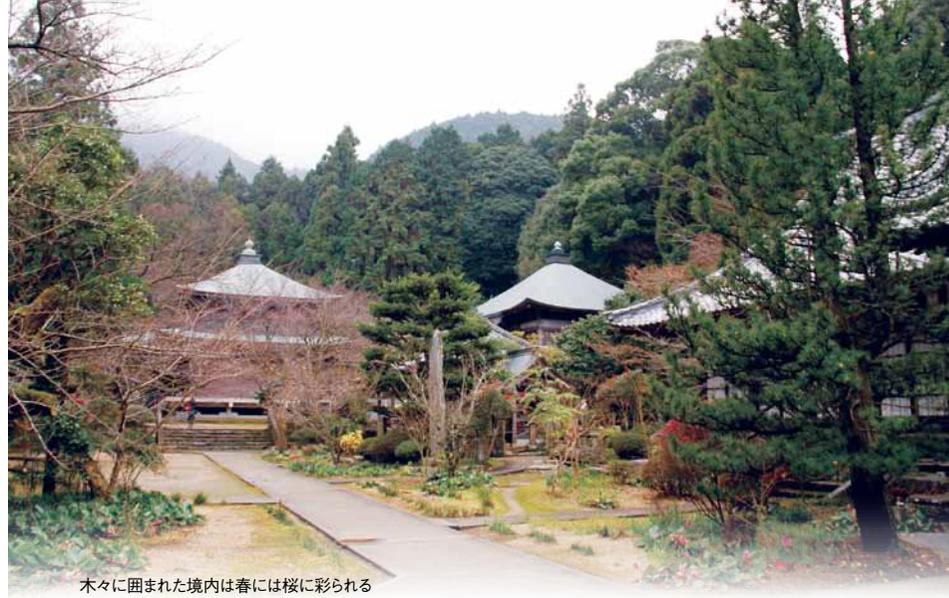


境内の見どころ



三角の池

薬師堂に向かって右側にある三角の池。弘法大師は、この寺で21日間の秘法を修めたとされ、その時の三角形の護摩壇の跡が三角の池になったといわれている。寺名もこの護摩壇が三角形であったことに由来している。周囲十数mの池の中には三角形の島があり、七福神の唯一の女神・弁財天が祀られている。



木々に囲まれた境内は春には桜に彩られる

第65番

由霊山 三角寺

ゆれいざん じそんいん さんかくじ

伊予の関所寺は子授け祈願で人気

歴史・全体像

天平年間(729～749)、聖武天皇の勅願により、弥勒菩薩の浄土を現して行基が開基した。本尊の十一面観音は、弘法大師が弘仁6年(815)に巡錫した際に安置した。同時に不動明王像も刻まれ、護摩壇を作り降伏護摩の法を修めたという。

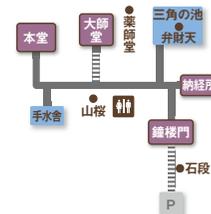
後に嵯峨天皇(在位809～823)が寺領三百町歩を下賜し、七堂伽藍が建立されるなど寺運は大いに栄えた。しかし、天正年間(1573～1592)になって、兵火のために堂宇を焼失。現在の本堂は、嘉永2年(1849)に再建されたものだ。また、子授け祈願の寺としても知られ、多くの人が訪れている。

境内

72段の石段を上って寺の入り口へ。伊予最後の霊場は標高約430m、平石山の中腹にある静かな寺だ。本堂には「安産御腹帯授与所」の札がかかっており、これは本尊の十一面観音が安産、子育て、厄除けの仏様であることから、特に妊娠中の女性やその家族のお参りが多く、ご祈禱をうけた腹帯とお守りを授かることができる。このほか、足腰健康やばけ封じとしても信仰されている。なお、檜材を使った一木造りの本尊・十一面観音は、平安前期の作と推定されている。大師堂は本堂からさらに上の高台にある。いずれも緑に囲まれて、風情のある眺めである。



安産を祈願し腹帯とお守りを受け取る



御詠歌/おそろしや三つのかども
いるならば心をまろく慈悲をねんぜよ
本尊/十一面観世音菩薩
真言/おん まか きやろにきゃ そわか
宗派/高野山真言宗
開基/行基菩薩

日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

2017年3月作成

